

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0655 ◆◆◆

21/09/29

【「山脈」超え、ドル/円は新たなフェーズ入りの可能性も!?】

ドル/円は 27 日の欧米市場で 7 月 5 日以来となる 111 円台を回復。さらに、翌 28 日、29 日とドルは続伸すると、111.66 円の年初来高値をわずかながら更新している。
そんなドル/円相場の先行きについて、今回の当レターでは「価格分布帯」の観点から考えてみたい。改めて指摘するまでもなく、非常に強い「吸着率」を誇った 108-110 円を取り敢えず超えてきた感があり、次のヤマ場は「114 円台乗せ」だ。「しっかり」超えることが出来れば、そのまま 117-120 円へと大きく台替わりをする可能性も否定できない。

◎まだ予断許さず、まずは 111-113 円台の「しっかり」した定着狙う

当レターで過去に何度もレポートしている「取引の価格分布帯」において、過去の取引が多かった価格帯は「居心地の良いレベル」で抜けることは容易でない反面、取引の少なかった価格帯は「居心地が悪いレベル」で、アッサリとスルーしていくような傾向が見受けられる。

そんな「価格分布帯」を見た場合、ドル/円は 104-113 円台とかなり幅広いゾーンで求心力の高い価格帯が連続しているのだが、さらによく見ると 109 円台は全価格帯のなかでもっとも取引日数が多かった(393 日)。また、その 109 円台を挟む格好の両隣に位置する 108 円台は 2 番目に多く、110 円台は同 3 番目だ。ちなみに、取引日数が 300 日の大台を超えているのは、その 3 つだけになる(詳細は下図参照。横軸が取引価格、縦軸は取引日数)。

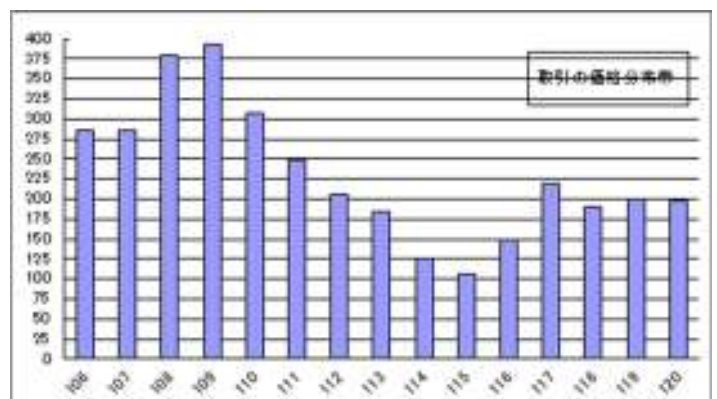
つまり、全価格帯のうち、もっとも険しい「山脈」とも言える 108-110 円台に搦めとられ、ドル/円は今年 5 月以降 5 ヶ月も広義の「往来相場」をたどってきたわけだが、それをここにきてようやく上抜けた感がある。まだ求心力の高いゾーン(104-113 円台)のうちにはとどまっているものの、ひと山超えたことで新たなフェーズに入った可能性も取り沙汰されていた。

一方、前述したように、ひと山超え新たなフェーズに入ったとすれば、今後はいったいどう動くか予想されるのだろうか。

引き続き求心力の高いゾーン(104-113 円台)のうちではあるため、イケイケドンドンのドル高進行は予想にくい。このままドルがジリジリとでも続伸し 114 円台へと到達すれば、今度は明らかに「世界観」が変わりそうだ。何故なら、114-116 円台は前後と比べ、取引が少ない価格帯にあたるため、そのままの勢いをかいつつ 117 円台へ、これまでとレベルが一段変わる危険性も秘めている。

ただし、108-110 円台という険しい山脈は確かに超えたものの、111-113 円台をこなすことが出来なければ結局「元の木阿弥」。今度は 104-107 円台を視野に、再び「下山」へと向かう展開をたどることにもなりかねない。

ドルブル派としては、まず 111-113 円台にしっかりと定着。そして、頃合いをみて 114 円トライへとアタックする動きを期待しているが、果して実際のところはいかがだろうか。(了)



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

